

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490800026		
法人名	株式会社ウインズ		
事業所名	ウインズの森角田グループホーム	ユニット名	ユニット1
所在地	宮城県角田市角田字緑町10-1		
自己評価作成日	令和 3年 1月 31日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 2月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安全」「安心」「寄り添うケア」を柱に、一律ケアを行うのではなく個別ケアを実践しております。ウインズの森角田グループホームは、一人ひとりの入居者様がご自分の気持ちや尊重できる環境作りを目指し、ご自分のペースで生活が送れるように支援していく事にも力を入れています。また、入居者様の笑顔が絶えない毎日が続くように、日々の活動や行事等の充実にも力を入れています。入居されてからも、ご家族様との絆失われぬようにスタッフが間に入り交流を進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阿武隈急行線角田駅の東、角田警察署の北側、商業施設が並ぶ繁華街から外れた住宅地の一角に「ウインズの森角田グループホーム」がある。設立から10年を迎え、当時から地域の親和会に加入し災害時援助協定を結び、公園清掃に参加するなど地域の一員として連携している。ホーム理念の「尊重・共生・笑顔」の具現化のために、職員は入居者に楽しく感じてもらえるイベントやアクティビティを工夫している。入居者との信頼関係を築き、「個別ケア」を大切にしながら「入居者にメリットのあるケア」に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ウインズの森角田グループホーム )「ユニット名 ユニット1」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念の他にグループホーム独自の理念を作成し事務所に掲示。毎日の申し送り時にスタッフ全員で唱和している。管理者・スタッフ全員で共有し実践している。	ホーム理念に「尊重・共生・笑顔」を掲げ、就業理念のテーマである「楽しいと感じてもらおう」ことを大事にしている。ケアへの迷いが生じた時に、振り返っている。否定せず、説得でなく納得してもらえるケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過にて活動制限を強いられている。	地域の親和会に加入しており、例年は親睦を目的とした花見や運動会に参加していた。ホーム前にある公園を住民と一緒に清掃している。地域と、災害時に入居者の避難協力や住民の受け入れを協定している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で勉強会を開き認知症の理解、ケア方法の向上に努めている。運営推進会議の場で報告し、質問等があれば答えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・区長・民生委員・入居者様の方々と2ヶ月に1度開催。GHの報告は写真入りで説明。意見交換し助言を頂いてサービス向上に活かしている。コロナ過の為、今年度は書面にて実施。	入居者の状況や活動、職員の勉強会などを報告し、メンバーから「介護の質のアップを感じた」などの感想が出ている。「運営推進会議の取り扱い」について本部より通知があり、4月より書面による開催としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず市の担当の方も出席して頂いている。事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、適切なアドバイスを受けながら協力関係を築くようしている。また、市主催の研修会にも参加をしている。	市担当課からマスクや消毒液などの配布があった。ホームでの感染防止対策の状況を伝え了承を得た。地域包括主催のケア会議に参加し、空き室情報など交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを使用し、スタッフの勉強会を行い、拘束のないケアとなるようにしている。また、夜間以外玄関の施錠はしていない。	管理者を含む4名の職員で構成する「身体拘束廃止委員会」がある。センサーを使用している入居者について、個別に立位困難など転倒リスクを報告し合い、センサー使用の根拠や代替について検討している。職員への研修は年間計画に入っている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや面談を大切にし、スタッフのメンタルケアに管理者は努めている。また、スタッフ間でのコミュニケーションも大切にストレス軽減出来るように配慮している。	職員の押し付けにならないように、伺う話し方や答えやすい問い方を工夫して対応している。入居者の行動や思いを制限しないことを大切に、その人らしく過ごせることで虐待のないケアにつながることを共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はスタッフ2人体制で行い、1つ1つ読み上げ、都度疑問がないか確認しながら進めている。また、改正時にも対面で説明をし理解を頂いた上で書面を残すようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、無記名でのご家族様アンケート調査を実施しサービス向上へ繋げている。玄関に意見箱を設置して。また、面会時に相談や要望を聞いている。	今年度、家族様アンケート調査はしていない。毎月、本人の写真を付けてホーム便りで報告をしている。面会は完全規制だが、ビデオ通話や窓越しに面会する人もいる。電話で服薬について家族の意見を聞くこともある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を定期的に行い、事業所内の問題や要望を本部会議へとあげ、解決に努めている。	職員による運営会議で、乾燥機や洗濯機の買い替えの要望があり対応した。年2回の人事考課の面談で、勤務時間の希望や職場での悩みなどを聞いている。入居者の声に応えるための個別活動の意見が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働きやすい環境作りを目指している。キャリアアップ制度、資格取得へのサポート体制がある。定期的に面談を実施。その中で意見があれば、可能な限り対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は積極的に参加を勧めている。また、内部研修も充実しており入社直後の新人研修、その後もテーマに沿った研修を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が角田丸森医療介護連携推進会議の構成員を担当している。事業所間の情報交換や問題、課題の共有を積極的に行っている。	市が開催する「医療介護連携推進会議」に出席している。薬剤師など多職種が同席し、それぞれの立場から防災についてなど話し合っている。ケア会議の研修会に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、ご本人はととても不安でおられる。気持ちを汲み取り、出来るだけ話の中から探り、焦らず関わっていく事でお互いに理解出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活を知り、ご本人の希望は勿論、ご家族様の想いや要望も取り入れながらケアにあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始するにあたり、ご本人・ご家族様と面談し、必要としているサービスを見極め、ご家族様の同意の上プランを決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフも同じ空間の中で暮らしていると思っている。出来る事は、積極的にお手伝い頂いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「スペシャルふれあいデー」と称し入居してからも本人・ご家族の思い出作りを大切にしている。また、施設側とご家族様の相談・連絡等を密に行っている。(ふれあいデーはコロナ過で制限中)		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過における面会規制中であるが、電話やライン電話を活用し、繋がりを維持できるように努めている。	疎遠になりがちな家族に、面会や便りをするよう声掛けしている。昔からの梅干し作りが継続できるよう支援している。訪問理容師との付き合いは長く、馴染みになっている。猫を飼っており、皆の癒しになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性を把握し、スタッフが仲介する事で話の輪が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の悩みを聞き、解決出来るような糸口が見いだせるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定時ケア、一律ケアではなく個別ケアを行っている。入居者様の意向を常に確認し、本人様の意思決定のもとケアを行うようにしている。	「自宅を見たい」「晩酌したい」「墓参りしたい」など希望に応じている。表出が苦手な人の取り繕う話し方や陰しい表情などから、本人の気になっていることを引き出して対応している。傾聴することを大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴の情報を基に、関わりの中でその方をきちんと理解出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、生活記録の確認は勤務前に必ず確認するのは当然のことながら特変のある入居者様、いつも様が違う入居者様においては必ず状況説明と対処方法を周知している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の把握や、提案も踏まえ、状態を見ながら意欲の向上、または現状が維持できるように努めている。申送りをしっかり行いケアの統一も図っている。また、状態が変化した時は御家族と面談し意見・希望を確認している。カンファレンスで話し合い介護計画を作成している。	3ヵ月毎にモニタリングをしている。本人の「歩いてトイレに行きたい」の意向に対し、一部介助や用具の活用を援助方針に上げ、「必要な介護と留意事項」に手引き歩行や自力の発揮など具体的ケアを示している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表にご本人が話した言葉、行動をありのまま記録に残している。また、関わり方とその反応も記録し、その後に繋げたり、改善のヒントにもなっている。申し送りノートにも記録し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の想いや状態を把握し、ご家族に報告、情報を交換する中からニーズに答えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や近隣のスーパーへの買い物に出かけている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を提携しており、月2回の診察を受けている。体調の変化があれば、随時相談職員が付添い受診もする。家族には即時連絡をしている。	全員が訪問診療を受けている。職員は診察に立ち合い「訪問診療報告内容」に状態や医師の助言を記録し、普段の健康管理の一助にしている。専門科の受診は家族が付き添っている。月に1回体重測定をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はおらず、協力医に現在の症状や様子などを伝え、適切な支援を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携している病院と情報の交換に努めている。入院中の対応は御家族様にして頂くが、GH側からも病院へ出向き状態の把握に努めている。退院後の受け入れも協力を頂いている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化についての事業所の方針を説明し承諾が得れば書面に署名・捺印を頂いている。状態に応じて、ご家族様と面談を行い、実状の説明、ご家族様の意向を伺い、GH側ができる事、出来ない事を改めて説明している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」の文書がある。主治医が終末期の判断をし、常時医療処置や管理が必要になった場合は退居となることを説明し同意を得ている。老衰で食事が摂れないなど、ホームで出来るケアの限界を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	何時もスタッフが不安なく冷静に対応出来るようにマニュアル、実技での研修会を開催している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回避難訓練を実施している。夜間を想定し職員2人でも安全に避難誘導出来る様に訓練している。また、繰り返し訓練をする事で入居者様・スタッフには体で覚えて頂きたいという考えでしている。災害時援助協定を自治体と締結している。	早朝想定を含む年6回の避難訓練を行った。毎回出火場所や避難経路を変えて実施している。過日の地震の際には、避難の準備をする入居者の姿が見られた。訓練記録に、次回に活かす事柄が明記されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どの入居者様もさんづけでお名前をお呼びしている。また、状況によって声の大きさやトーンを配慮するようにしている。	入居者の混乱や不安な状態が見られた際は、その時の環境がどうだったかや職員の対応の仕方などを振り返り、要因と適切な対応について話し合っている。「何がこの人にとって良いケアか」を考えの基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな小さな事でも、職員の押しつけのならないようお伺いをする。出来るだけ答えやすいような言葉を選びお聞きする様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の意思を伝えて下さる方は少ないが、一日の中でメリハリがある様にしている。状態を見極め、体が辛そうな時はお部屋で、手持ちぐさのような時はお手伝いをお願いしたり、外気浴や体操を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洋服の中から、いくつか提案を出す事はある。女性の方には、行事の際お化粧を施している。2か月に一度訪問理容を頼んでいる。それぞれに合ったカットをして頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事への意欲につながるような声掛けをしたり、食席の配慮もしている。出来る限り利用者様にも食事作り、片付けの手伝いをして頂いてる。行事食や誕生日などはいつもと違う形で提供をしている。	配食業者を利用している。夏の流しそうめんや秋に炭火で焼く秋刀魚、正月の御重や団子挿しなど、見た目の美味しさや季節の行事食を大切にしている。おやつの中づくりやケーキの飾り付けも楽しそう。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて1人1人の食事量を調整したり、食べやすい様に工夫をしたり、介助することで摂取して頂いている。食事時間も固定はしていない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方はもちろんだが、自立している方も声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの誘導を行い、排泄の促しをしている。記録の中から排泄のリズムを知る努力を常にスタッフ間で話し合いながら行っている。	「排泄・水分表」に記録し、服薬調整の目安にしたり、随時の変化に気付けるようにしている。適切な誘導時間でオムツはできる限り使わないよう心掛けている。耳の遠い人には大声でなく隣に座って声がけする。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中で予防に努めている。また水分の補給も声掛けし最低量の摂取を促している。排便パターンを見て滞りないようにしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	定期的に入浴ができるよう、ある程度予定をたてているが、判断は本人次第である。また、拒否が多い方の時間帯をずらす等いろいろ工夫している。	週に2回の入浴を目安にしている。気持ち良く入ってもらうために、本人の同意を得ることや2人で介助したり入浴剤の使用、声がけの仕方などに配慮している。脱いだ衣類を心配する人に、引換券を渡すなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれお好きなように過ごして頂いている。入居者個々に応じた生活パターンに対応している。生活の中にメリハリを持っていただけるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ・誤薬が無いよう、薬のセットはスタッフ2名で確認。服用時は利用者の名前と日付を確認。きちんと飲み込んだかの確認までしている。提携する薬局とも情報交換をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる事をスタッフは把握し、家事をお願いしている。また、散歩や外気浴、体操を毎日必ず取り入れている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で自粛中ではあるが、初詣やお墓参りなど感染対策を万全にし行っている。	諏訪神社への初詣やロケットセンターなど、飲食をしないことや密にならない場所を選んで外出している。ホールにつながる広いウッドデッキでは、絨毯を敷いて日向ぼっこすることもある。墓参りや帰宅、買い物など、入居者の要望に応じた外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様にはGH側で管理させてもらう旨理解を頂いている。毎月支出入は領収書を付け報告している。ご確認後は受領印を頂戴している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応はしている。年賀状は出来る限りメッセージを手書きで出している。面会規制中の為、一部の家族様とはライン電話の対応を行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に過ごすホールには季節感を出すための工夫をしている。その飾り付けも一緒にやっている。	ホールでの入居者の座席は、互いの関係性を考えて向きや場所を決めている。壁に飾った鬼の面は、入居者の塗り絵を切り抜いたもので節分の豆まきで活躍した。ホールでは、カラオケやテレビ体操などを楽しみ、その足元を猫がどこともなく歩き回っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキにはベンチがあり、ホール内の日当たりの良い所にソファを置いたり、思い思いの場所で過ごせるようにしている。表情を見て、独りの時間を過ごしてもらえよう配慮を行っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた馴染みの物を持ち込んで頂くようには伝えている。壁には御家族とお写真などを飾っている。動線を考慮し、安全にも配慮している。	各居室にナースコールが設置されている。クローゼットとベッド、エアコンがホームの設えである。その人の状態変化や習慣に合わせてベッドの位置にしている。夜間は2時間毎に巡視している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線を考慮し、邪魔にならないように気を付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490800026		
法人名	株式会社ウインズ		
事業所名	ウインズの森角田グループホーム	ユニット名	ユニット2
所在地	宮城県角田市角田字緑町10-1		
自己評価作成日	令和 3年 1月 31日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 2月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安全」「安心」「寄り添うケア」を柱に、一律ケアを行うのではなく個別ケアを実践しております。ウインズの森角田グループホームは、一人ひとりの入居者様がお自分の気持ちや尊重できる環境作りを目指し、ご自分のペースで生活が送れるように支援していく事に力を入れております。また、入居者様の笑顔が絶えない毎日が続くように、日々の活動や行事等の充実にも力を入れております。入居されてからも、ご家族様との絆失われぬようにスタッフが間に入り交流を進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阿武隈急行線角田駅の東、角田警察署の北側、商業施設が並ぶ繁華街から外れた住宅地の一角に「ウインズの森角田グループホーム」がある。設立から10年を迎え、当時から地域の親和会に加入し災害時援助協定を結び、公園清掃に参加するなど地域の一員として連携している。ホーム理念の「尊重・共生・笑顔」の具現化のために、職員は入居者に楽しく感じてもらえるイベントやアクティビティを工夫している。入居者との信頼関係を築き、「個別ケア」を大切にしながら「入居者にメリットのあるケア」に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ウインズの森角田グループホーム )「ユニット名 ユニット2」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念の他にグループホーム独自の理念を作成し事務所に掲示。毎日の申し送り時にスタッフ全員で唱和している。管理者・スタッフ全員で共有し実践している。	ホーム理念に「尊重・共生・笑顔」を掲げ、就業理念のテーマである「楽しいと感じてもらおう」ことを大事にしている。ケアへの迷いが生じた時に、振り返っている。否定せず、説得でなく納得してもらえるケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過にて活動制限を強いられている。	地域の親和会に加入しており、例年は親睦を目的とした花見や運動会に参加していた。ホーム前にある公園を住民と一緒に清掃している。地域と、災害時に入居者の避難協力や住民の受け入れを協定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で勉強会を開き認知症の理解、ケア方法の向上に努めている。運営推進会議の場で報告し、質問等があれば答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・区長・民生委員・入居者様の方々と2ヶ月に1度開催。GHの報告は写真入りで説明。意見交換し助言を頂いてサービス向上に活かしている。コロナ過の為、今年度は書面にて実施。	入居者の状況や活動、職員の勉強会などを報告し、メンバーから「介護の質のアップを感じた」などの感想が出ている。「運営推進会議の取り扱い」について本部より通知があり、4月より書面による開催としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず市の担当の方も出席して頂いている。事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、適切なアドバイスを受けながら協力関係を築くようしている。また、市主催の研修会にも参加をしている。	市担当課からマスクや消毒液などの配布があった。ホームでの感染防止対策の状況を伝え了承を得た。地域包括主催のケア会議に参加し、空き室情報など交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを使用し、スタッフの勉強会を行い、拘束のないケアとなるようにしている。また、夜間以外玄関の施錠はしていない。	管理者を含む4名の職員で構成する「身体拘束廃止委員会」がある。センサーを使用している入居者について、個別に立位困難など転倒リスクを報告し合い、センサー使用の根拠や代替について検討している。職員への研修は年間計画に入っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや面談を大切にし、スタッフのメンタルケアに管理者は努めている。また、スタッフ間でのコミュニケーションも大切にストレス軽減出来るように配慮している。	職員の押し付けにならないように、伺う話し方や答えやすい問い方を工夫して対応している。入居者の行動や思いを制限しないことを大切に、その人らしく過ごせることで虐待のないケアにつながることを共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はスタッフ2人体制で行い、1つ1つ読み上げ、都度疑問がないか確認しながら進めている。また、改正時にも対面で説明をし理解を頂いた上で書面を残すようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、無記名でのご家族様アンケート調査を実施しサービス向上へ繋げている。玄関に意見箱を設置して。また、面会時に相談や要望を聞いている。	今年度、家族様アンケート調査はしていない。毎月、本人の写真を付けてホーム便りで報告をしている。面会は完全規制だが、ビデオ通話や窓越しに面会する人もいる。電話で服薬について家族の意見を聞くこともある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を定期的に行い、事業所内の問題や要望を本部会議へとあげ、解決に努めている。	職員による運営会議で、乾燥機や洗濯機の買い替えの要望があり対応した。年2回の人事考課の面談で、勤務時間の希望や職場での悩みなどを聞いている。入居者の声に応えるための個別活動の意見が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働きやすい環境作りを目指している。キャリアアップ制度、資格取得へのサポート体制がある。定期的に面談を実施。その中で意見があれば、可能な限り対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は積極的に参加を勧めている。また、内部研修も充実しており入社直後の新人研修、その後もテーマに沿った研修を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が角田丸森医療介護連携推進会議の構成員を担当している。事業所間の情報交換や問題、課題の共有を積極的に行っている。	市が開催する「医療介護連携推進会議」に出席している。薬剤師など多職種が同席し、それぞれの立場から防災についてなど話し合っている。ケア会議の研修会に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、ご本人はとて不安でおられる。気持ちを汲み取り、出来るだけ話の中から探り、焦らず関わっていく事でお互いに理解出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活を知り、ご本人の希望は勿論、ご家族様の想いや要望も取り入れながらケアにあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始するにあたり、ご本人・ご家族様と面談し、必要としているサービスを見極め、ご家族様の同意の上プランを決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフも同じ空間の中で暮らしていると思っている。出来る事は、積極的にお手伝い頂いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「スペシャルふれあいデー」と称し入居してからも本人・ご家族の思い出作りを大切にしている。また、施設側とご家族様の相談・連絡等を密に行っている。(ふれあいデーはコロナ過で制限中)		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過における面会規制中であるが、電話やライン電話を活用し、繋がりを維持できるように努めている。	疎遠になりがちな家族に、面会や便りをするよう声掛けしている。昔からの梅干し作りが継続できるよう支援している。訪問理容師との付き合いは長く、馴染みになっている。猫を飼っており、皆の癒しになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性を把握し、スタッフが仲介する事で話の輪が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の悩みを聞き、解決出来るような糸口が見いだせるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定時ケア、一律ケアではなく個別ケアを行っている。入居者様の意向を常に確認し、本人様の意思決定のもとケアを行うようにしている。	「自宅を見たい」や「晩酌したい」「墓参りしたい」など希望に応じている。表出が苦手な人の取り繕う話し方や陰しい表情などから、本人の気になっていることを引き出して対応している。傾聴することを大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴の情報を基に、関わりの中でその方をきちんと理解出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、生活記録の確認は勤務前に必ず確認するのは当然のことながら特変のある入居者様、いつも様子が違う入居者様においては必ず状況説明と対処方法を周知している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の把握や、提案も踏まえ、状態を見ながら意欲の向上、または現状が維持できるように努めている。申し送りをしっかり行いケアの統一も図っている。また、状態が変化した時は御家族と面談し意見・希望を確認している。カンファレンスで話し合い介護計画を作成している。	3ヵ月毎にモニタリングをしている。本人の「歩いてトイレに行きたい」の意向に対し、一部介助や用具の活用を援助方針に上げ、「必要な介護と留意事項」に手引き歩行や自力の発揮など具体的ケアを示している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表にご本人が話した言葉、行動をありのまま記録に残している。また、関わり方とその反応も記録し、その後に繋げたり、改善のヒントにもなっている。申し送りノートにも記録し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の想いや状態を把握し、ご家族に報告、情報を交換する中からニーズに答えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や近隣のスーパーへの買い物に出かけている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を提携しており、月2回の診察を受けている。体調の変化があれば、随時相談職員が付添い受診もする。家族には即時連絡をしている。	全員が訪問診療を受けている。職員は診察に立ち合い「訪問診療報告内容」に状態や医師の助言を記録し、普段の健康管理の一助にしている。専門科の受診は家族が付添っている。月に1回体重測定をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はおらず、協力医に現在の症状や様子などを伝え、適切な支援を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携している病院と情報の交換に努めている。入院中の対応は御家族様にして頂くが、GH側からも病院へ出向き状態の把握に努めている。退院後の受け入れも協力を頂いている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化についての事業所の方針を説明し承諾が得れば書面に署名・捺印を頂いている。状態に応じて、ご家族様と面談を行い、実状の説明、ご家族様の意向を伺い、GH側ができる事、出来ない事を改めて説明している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」の文書がある。主治医が終末期の判断をし、常時医療処置や管理が必要になった場合は退居となることを説明し同意を得ている。老衰で食事が摂れないなど、ホームで出来るケアの限界を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	何時もスタッフが不安なく冷静に対応出来るようにマニュアル、実技での研修会を開催している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回避難訓練を実施している。夜間を想定し職員2人でも安全に避難誘導出来る様に訓練している。また、繰り返し訓練をする事で入居者様・スタッフには体で覚えて頂きたいという考えでしている。災害時援助協定を自治体と締結している。	早朝想定を含む年6回の避難訓練を行った。毎回出火場所や避難経路を変えて実施している。過日の地震の際には、避難の準備をする入居者の姿が見られた。訓練記録に、次回に活かす事柄が明記されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どの入居者様もさんづけでお名前をお呼びしている。また、状況によって声の大きさやトーンを配慮するようにしている。	入居者の混乱や不安な状態が見られた際は、その時の環境がどうだったかや職員の対応の仕方などを振り返り、要因と適切な対応について話し合っている。「何がこの人にとって良いケアか」を考えの基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな小さな事でも、職員の押しつけのならないようお伺いをする。出来るだけ答えやすいような言葉を選びお聞きする様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の意思を伝えて下さる方は少ないが、一日の中でメリハリがある様にしている。状態を見極め、体が辛そうな時はお部屋で、手持ちぐさのような時はお手伝いをお願いしたり、外気浴や体操を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洋服の中から、いくつか提案を出す事はある。女性の方には、行事の際お化粧を施している。2か月に一度訪問理容を頼んでいる。それぞれに合ったカットをして頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事への意欲につながるような声掛けをしたり、食席の配慮もしている。出来る限り利用者様にも食事作り片付けの手伝いをして頂いている。行事食や誕生日などはいつもと違う形で提供をしている。	配食業者を利用している。夏の流しそうめんや秋に炭火で焼く秋刀魚、正月の御重や団子挿しなど、見た目の美味しさや季節の行事食を大切にしている。おやつの中づくりやケーキの飾り付けも楽しそう。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて1人1人の食事量を調整したり、食べやすい様に工夫をしたり、介助することで摂取して頂いている。食事時間も固定はしていない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方はもちろんだが、自立している方も声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの誘導を行い、排泄の促しをしている。記録の中から排泄のリズムを知る努力を常にスタッフ間で合いながら行っている。	「排泄・水分表」に記録し、服薬調整の目安にしたり、随時の変化に気付けるようにしている。適切な誘導時間でオムツはできる限り使わないよう心掛けている。耳の遠い人には大声でなく隣に座って声がけする。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中で予防に努めている。また水分の補給も声掛けし最低量の摂取を促している。排便パターンを見ていないようにしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	定期的に入浴ができるよう、ある程度予定をたてているが、判断は本人次第である。また、拒否が多い方の時間帯をずらす等いろいろ工夫している。	週に2回の入浴を目安にしている。気持ち良く入ってもらうために、本人の同意を得ることや2人で介助したり入浴剤の使用、声がけの仕方などに配慮している。脱いだ衣類を心配する人に、引換券を渡すなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれお好きなように過ごして頂いている。入居者個々に応じた生活パターンに対応している。生活の中にメリハリを持っていただけるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ・誤薬が無いよう、薬のセットはスタッフ2名で確認。服用時は利用者の名前と日付を確認。きちんと飲み込んだかの確認までしている。提携する薬局とも情報交換をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる事をスタッフは把握し、家事をお願いしている。また、散歩や外気浴、体操を毎日必ず取り入れている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で自粛中ではあるが、初詣やお墓参りなど感染対策を万全にし行っている。	諏訪神社への初詣やロケットセンターなど、飲食をしないことや密にならない場所を選んで外出している。ホールにつながる広いウッドデッキでは、絨毯を敷いて日向ぼっこすることもある。墓参りや帰宅、買い物など、入居者の要望に応じた外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様にはGH側で管理させてもらう旨理解を頂いている。毎月支出入は領収書を付け報告している。ご確認後は受領印を頂戴している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応はしている。年賀状は出来る限りメッセージを手書きで出している。面会規制中の為、一部の家族様とはライン電話の対応を行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に過ごすホールには季節感を出すための工夫をしている。その飾り付けも一緒にやっている。	ホールでの入居者の座席は、互いの関係性を考えて向きや場所を決めている。壁に飾った鬼の面は、入居者の塗り絵を切り抜いたもので節分の豆まきで活躍した。ホールでは、カラオケやテレビ体操などを楽しみ、その足元を猫がどこともなく歩き回っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキにはベンチがあり、ホール内の日当たりの良い所にソファを置いたり、思い思いの場所で過ごせるようにしている。表情を見て、独りの時間を過ごしてもらえよう配慮を行っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた馴染みの物を持ち込んで頂くようには伝えている。壁には御家族とお写真などを飾っている。動線を考慮し、安全にも配慮している。	各居室にナースコールが設置されている。クローゼットとベッド、エアコンがホームの設えである。その人の状態変化や習慣に合わせてベッドの位置にしている。夜間は2時間毎に巡視している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線を考慮し、邪魔にならないように気を付けている。		